



OSAKA CITY UNIVERSITY

2018年度 科学的思考論プレゼン
7期生 DC班 青木 安藤 沖野 Victoria

本離れを解決しよう！

～KJ法を使ったものの考え方～



大阪市立大学商学部
宮川研究室

プレゼンの流れ

- KJ法について
- W型問題解決モデルについて
- 実例「本離れ」
- まとめ

KJ法とは

問題解決のプロセスにおいて使われる方法論



KJ法の流れ

紙きれづくり



グループ編成



A型図解



B型文章化

アイデアやデータを集めよう

紙きれづくり

- ・小さい紙に整理したいデータを書く
- ・たくさんの情報を書くことが大切
- ・簡潔な言葉で書く

紙きれの共通点を見つけてグループにまとめよう

紙切れあつめ

紙きれを並べて関係があると思った
紙きれ同士をグループ化する
(1グループの枚数制限はなし)

グループ編成

表札作り

表札 = グループの紙きれを要約したもの
表札を上にしてグループごとに束ねる

表札を紙きれとして考えて
紙切れあつめ → 表札作りを再び始める

グループの関係性を表そう

A型図解

空間配置

- ・ グループを上から下に並べる
- ・ 並列させるものがある可
- ・ グループをばらして中の紙きれを並べる
- ・ 混ざらないようにグループは線で囲む

図解化

- ・ 空間配置に矢印などの記号で関係を表す



A型図解を文章に変える

A型図解を踏まえて文章化する

(書いてもいいししゃべるだけでもいい)

グループ

B型文章化

グループ1

紙きれ1

紙きれ2

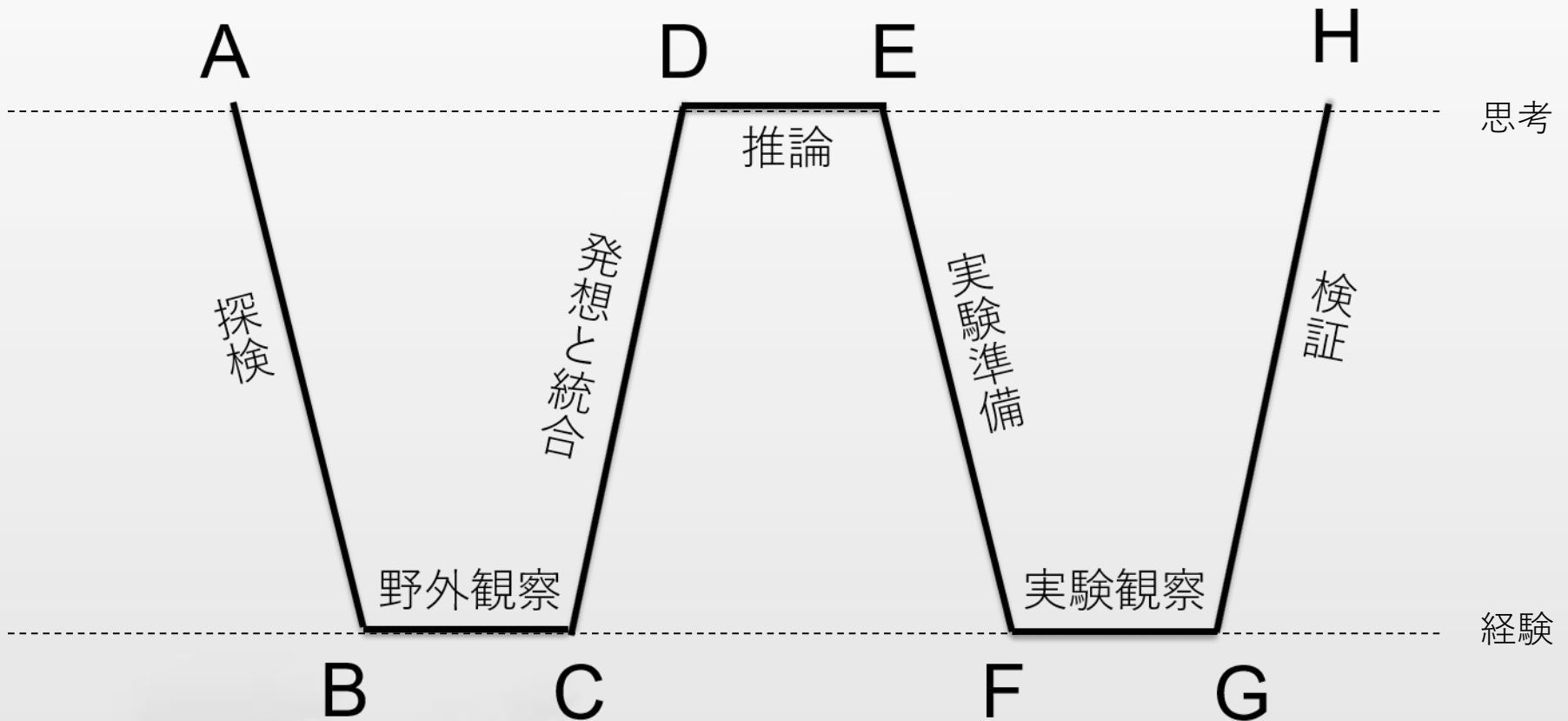
グループ2

紙きれ3

紙きれ4

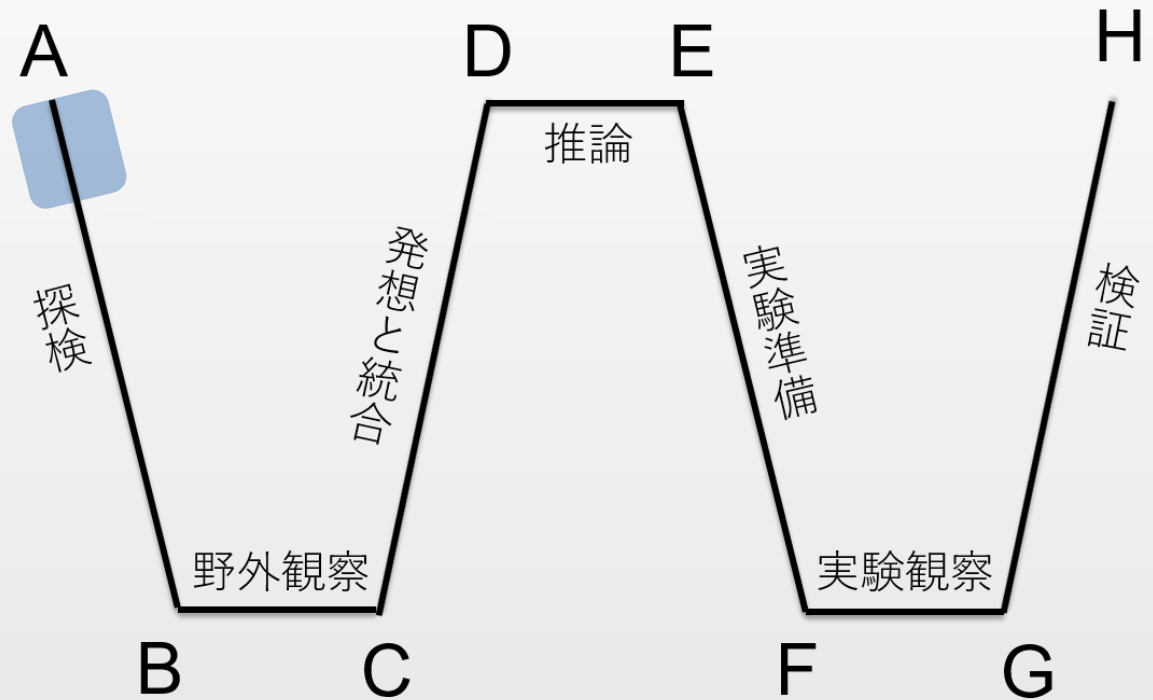
問題提起から問題解決へのルート

W型問題解決モデル



解決すべきことは何か？

A点
問題提起



問題解決の方向性を考えよう

AからB

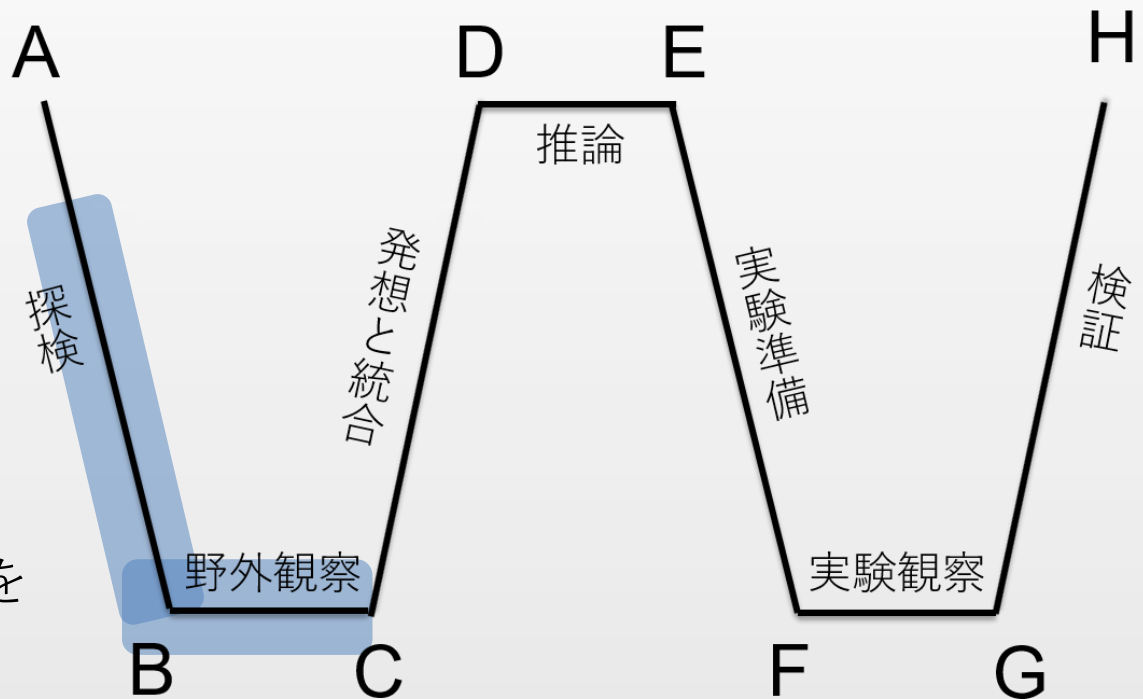
問題現状についての
アイデアを出し合う

B点

問題解決の方向性を
決める

BからC

方向性に基づくデータを
集める



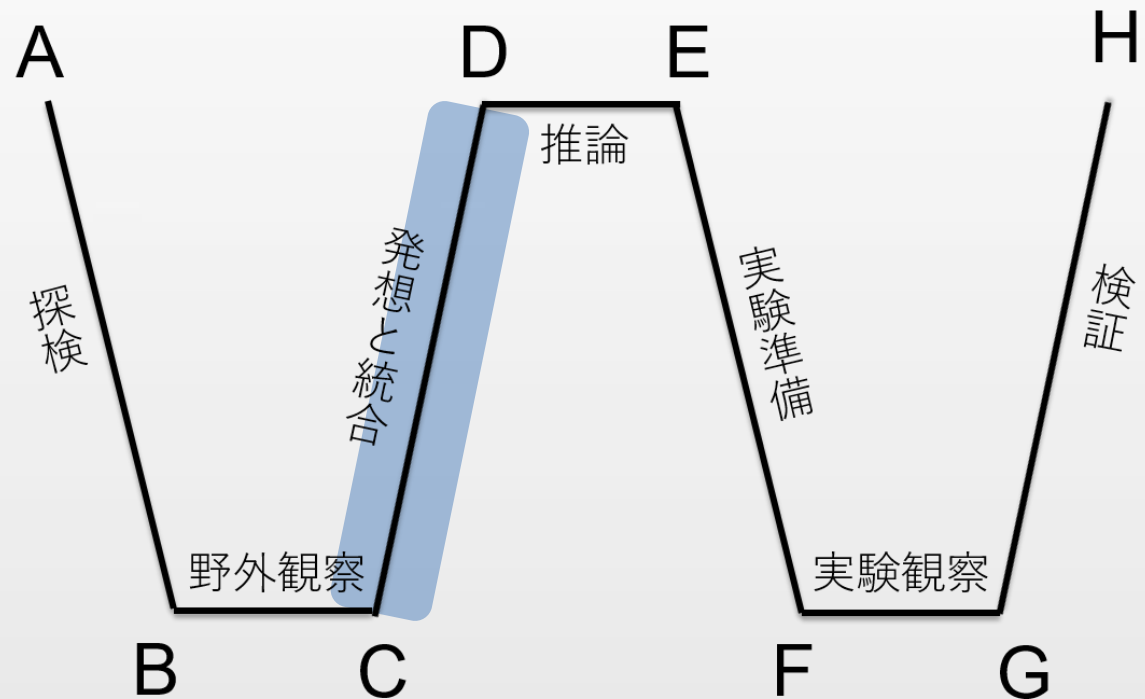
現状を把握しよう

CからD

集めたデータを整理する

D点

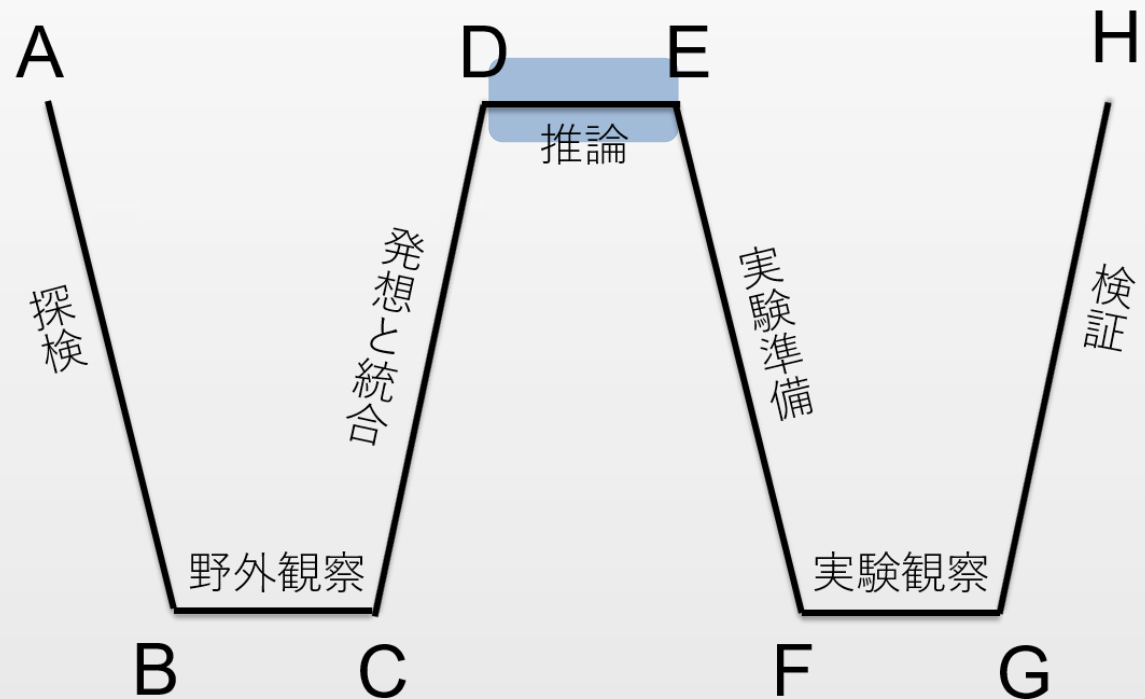
- ・現状把握が完成
- ・解決できるかどうか決める



解決策を考えよう

DからE

仮説を立てる



考えた解決策を実践しよう！

EからF

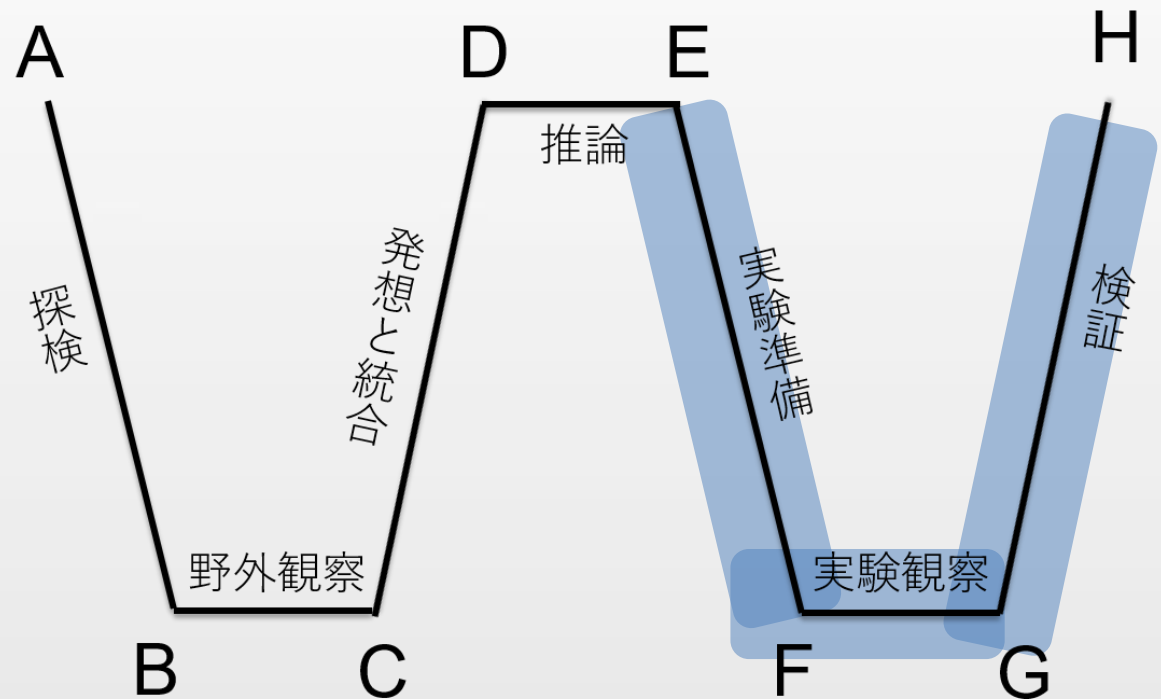
仮説の実行計画を
たてる

FからG

実験を行う

GからH

仮説があっているか
確かめる



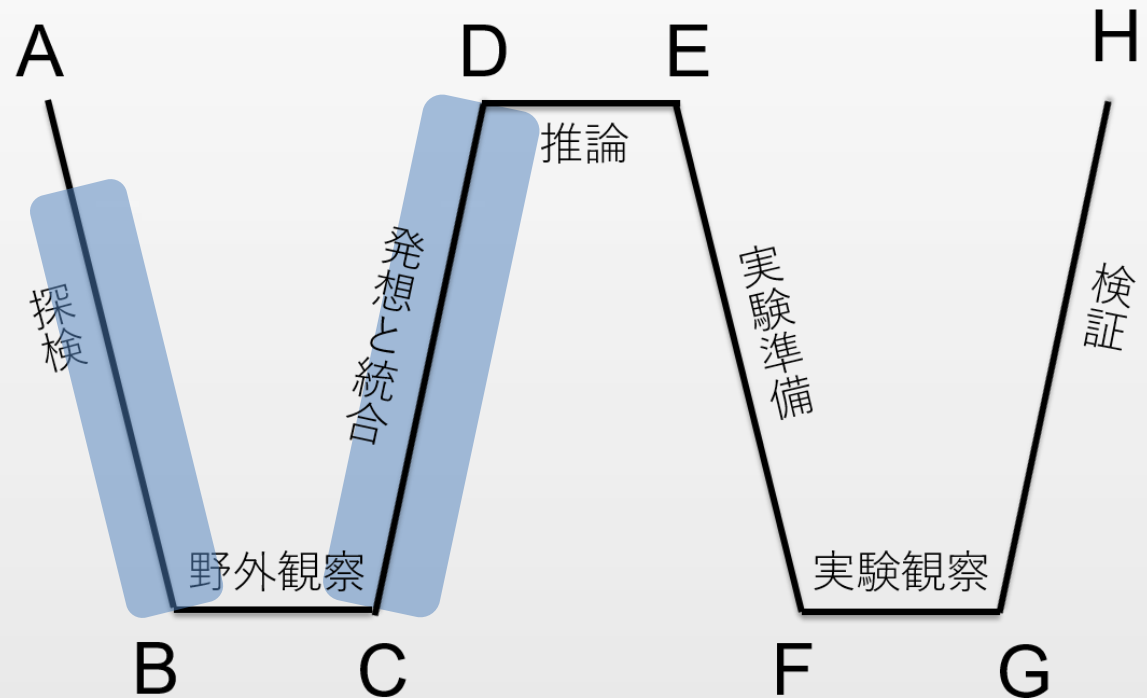
KJ法を使うのはこの2箇所！

AからB

考えを整理するKJ法

CからD

現状を把握するKJ法



2つのKJ法の違い

考えを整理するKJ法

- ・問題を解決するための方向性をあわせるため
- ・問題の現状についてのアイデアを紙きれにする

現状を把握するKJ法

- ・問題の現状を客観的に捉えるため
- ・客観的データを紙きれにする

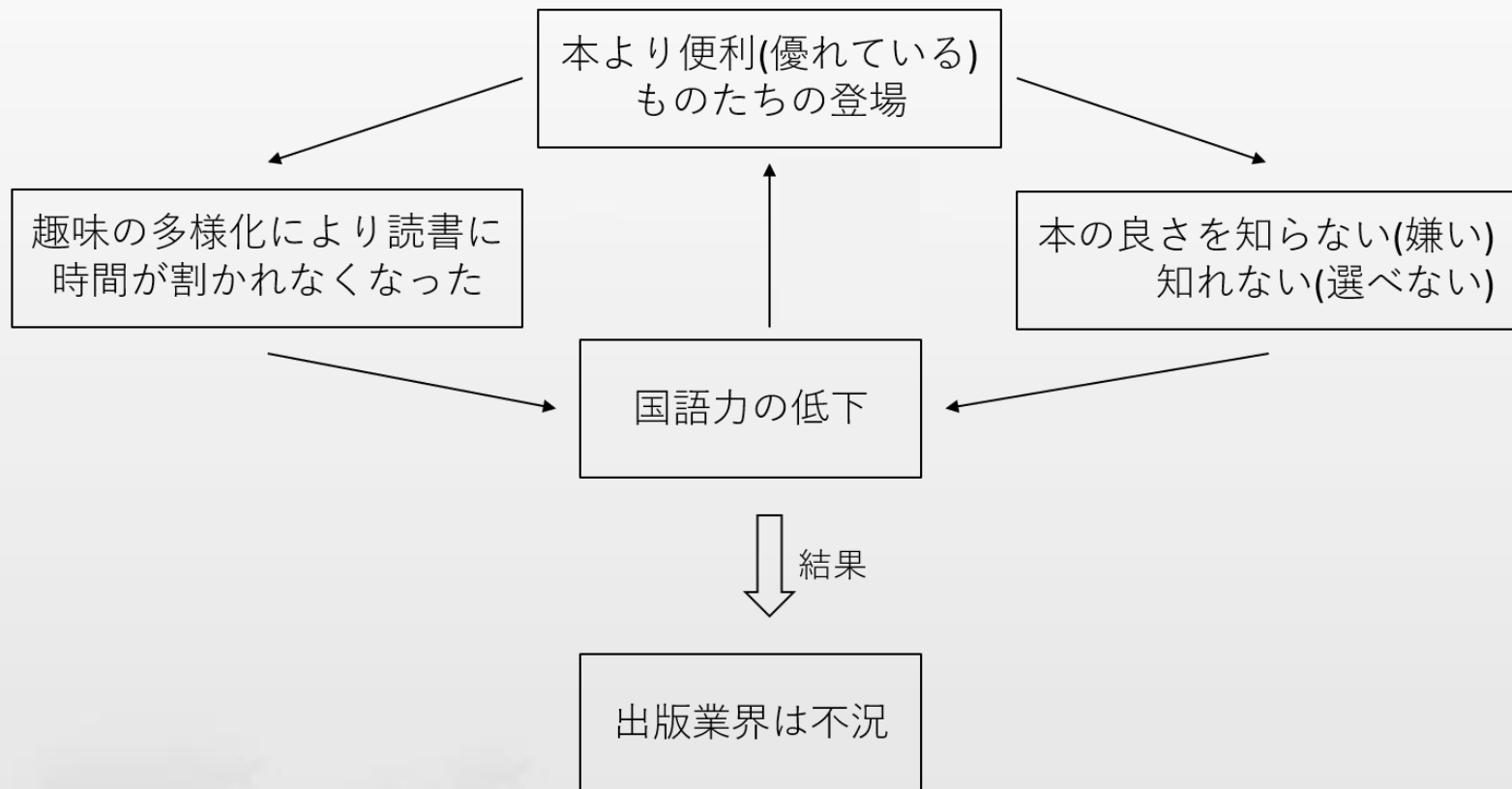
実例

問題：本離れ



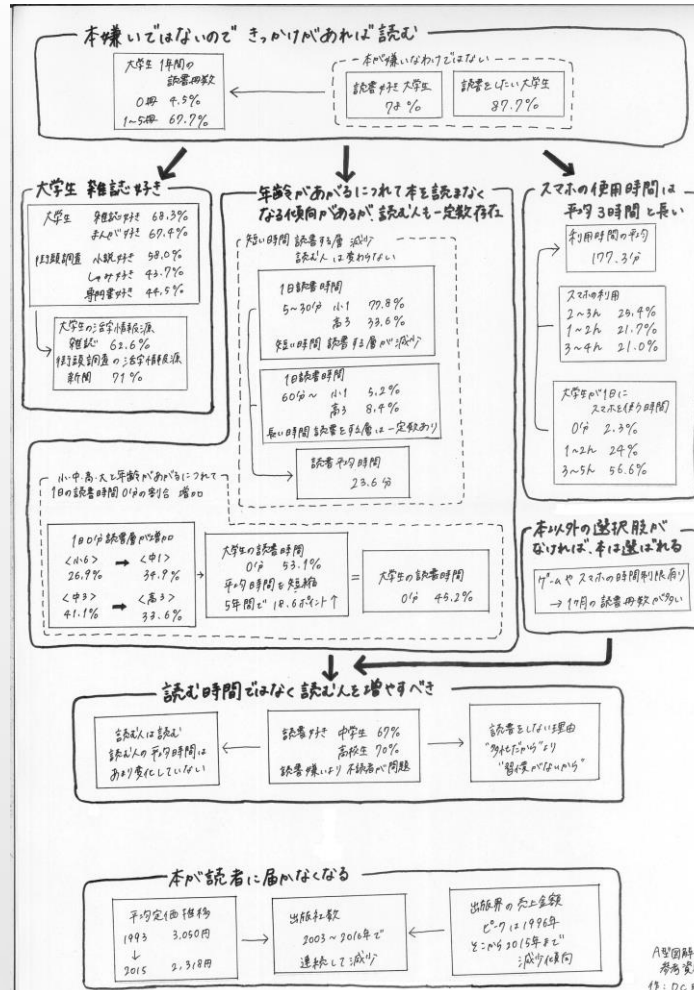
本離れの何が問題か？

考えを整理するKJ法



事実のデータから現状把握

A型図解



(配布資料)



KJ法の流れのおさらい

紙きれづくり



グループ編成



A型図解



B型文章化

なぜ解決策が出せなかったのか

反省点

- ・ 本の定義づけができていなかった
 - ・ 国語力のデータが不足していた
- 有効な解決策を導けなかった

続・発想法を読んで

KJ法を使うと
アイデアやデータが簡単にまとめられる

KJ法は日常の身近な問題から社会的な問題まで
幅広く使える

参考文献

- 大内田鶴子 (2005)「現代学生の本離れ」,『情報と社会』 15号
p.147~156,江戸川大学
- 川喜田二郎 (1970)『続・発想法 KJ法の展開と応用』,中公新書
- 清田義昭 (2016)「情報区 読書時間『0』が45%」
『出版ニュース』,2016年6月上旬号,出版ニュース社
- 深谷和子 (2018)「読書の楽しみに対抗するスマホ環境：電子化時代の人間形成を考える」,『児童心理』,2018年3月号,p.267~273
金子書房
- 皆川晶 (2017)「大学生の読書に対する意識と実態」,『崇城大学紀要』
第42号,p.153~167,崇城大学
- 「第53回学生生活実態調査の概要報告」
<<http://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>>
2018年4月7日アクセス



ご清聴ありがとうございました！

